

平成 1 8 年度政策評価について

1 経 過

- 4 月 第 1 回京都市政策評価制度評議会を開催
 5 月 市民生活実感調査の実施
 調査期間：5 月 1 2 日（金）～5 月 3 0 日（火）（1 9 日間）
 広報発表：7 月 6 日（木）
 9 月 平成 1 8 年度京都市政策評価結果広報発表
 平成 1 9 年度政策重点化方針の策定に活用

資料 1

資料 2

2 平成 1 8 年度政策評価における改善点

(1) 客観指標について

ア 一施策当たりの指標数の確保

客観指標評価の客観性向上のため、一施策当たりの指標数を 3 指標以上とすることに努めた。

平成 1 7 年度	客観指標が一つの施策	9 施策	資料 3
	客観指標が二つの施策	2 1 施策	
↓			
平成 1 8 年度	客観指標が一つの施策	3 施策	
	客観指標が二つの施策	8 施策	

イ 目標値の設定

政策評価がより行政活動の指針となるよう、目標値を設定して評価する指標数の増加に努めた。

平成 1 7 年度	4 3 7 指標のうち 1 7 5 指標（設定率 4 0 %）
↓	
平成 1 8 年度	4 3 8 指標のうち 3 2 3 指標（設定率 7 3 . 7 %）

* 平成 1 6 年度は 3 8 7 指標のうち 8 6 指標（設定率 2 2 . 2 %）

ウ 評価基準の統一

客観指標の評価基準の整合性向上のため、類似指標の評価基準の統一に努めた。

(対象)

「ホームページアクセス件数」、「公の施設（一般対象）の利用者数」、「イベント・講座参加者数」

(例)

「ホームページアクセス件数」の場合、立ち上げたばかりのホームページではアクセス数が伸びて当然のため a を前年度実績×2割増にし、成熟期にあるホームページにおいては a を過去5年間の最高値以上にする等

エ 評価基準の見直し

過去の順位と比較する評価基準について、数値の改善度と評価が比例する評価基準に変更することとした。

- 平成17年度 20指標（全て観光関係）

(改善前)

過去10年間における順位が
a：1～2位
b：3～4位
c：5～6位
d：7～8位
e：9～10位



(改善後)

最新の数値が
a：過去5年間の最高値以上
b：過去5年間の最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間
c：過去5年間の上中間と平均値の間
d：過去5年間の平均値と下中間（平均値と最低値の間）の間
e：過去5年間の下中間以下

(2) 市民生活実感調査について

ア 設問の変更 資料4-1, 4-2

(ア) 平成17年度に同じ設問を用いて評価を行った施策の設問を、施策毎の設問に戻した（(3)参照）ことによる変更を行った（5問）。

(イ) 市民の生活実感をよりの的確に捉えるための変更を行った（1問）。

イ 実施状況

年度	有効回答数	回収率
18	1,099	36.6%
17	1,129	37.6%
16	1,237	41.2%
15	1,097	36.6%

(3) 評価の対象について 資料5

平成17年度に、同様の施策内容である場合は、同じ客観指標及び市民生活実感調査を用いて評価するように変更した（24施策）。

その結果、情報化に関する5施策について、情報化に関係のない客観指標によって評価することとなったため、従来通りの個別評価に戻した。

(4) 評価結果の公表について

前年度比較を指標レベルでも分析できるよう、「政策の評価」と「施策の評価」の結果に、前年度の客観指標評価結果を併記した。